

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	建物火災現場における放水中の感電危険
3. 体験した事例の中心的要素	建物火災で屋外より放水中に電柱から建物への電気がまだ通電状態であり、引込み線が「バチバチ」と音をたて、火花が飛んでいた。通電状態で、建物および地面は放水により濡れており、自身も濡れていることから感電の危険があった。
4. 体験した事例の原因・理由	送電停止の確認をしないまま放水したことで、輻射熱により被覆が溶融した引込み線に水がかかったため。

#### 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

### 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 20 年 5 月 28 日 午後 1 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋外：建物火災現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動初期 [ 木造建物 ]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

#### 10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[ 34 ]歳、 勤続年数[ 15 ]年、 現場経験年数[ 15 ] 年、 階級[ 消防士長 ]、 同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ 隊員 ]
○当事者 B	年齢[ 54 ]歳、 勤続年数[ 36 ]年、 現場経験年数[ 26 ]年、 階級[ 消防司令 ]、 同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ 複数隊の隊長 ]
○当事者 C	年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、 同様の活動 [ ]、 任務 [ ]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

## 11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者	ホース延長、延焼建物へ放水。	
経過 2		電線に水がかかり「バチバチッ」と火花が飛び、	
経過 3		電線の被覆が剥げているのを確認した。	
経過 4		送電が停止されていないことを指揮者へ報告し、	
経過 5		送電停止を依頼。	
経過 6	当事者 B	報告を受け送電停止の依頼をした	
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

#### 【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 small black circular dots, evenly spaced from left to right.

### ○事故の場合

：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。指揮者が適切に指示した。

## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
  - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
  - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
  - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
  - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

#### ○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

#### ○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

#### ○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

#### ○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ
-----

【事故発生後の取り組みについて】

.....

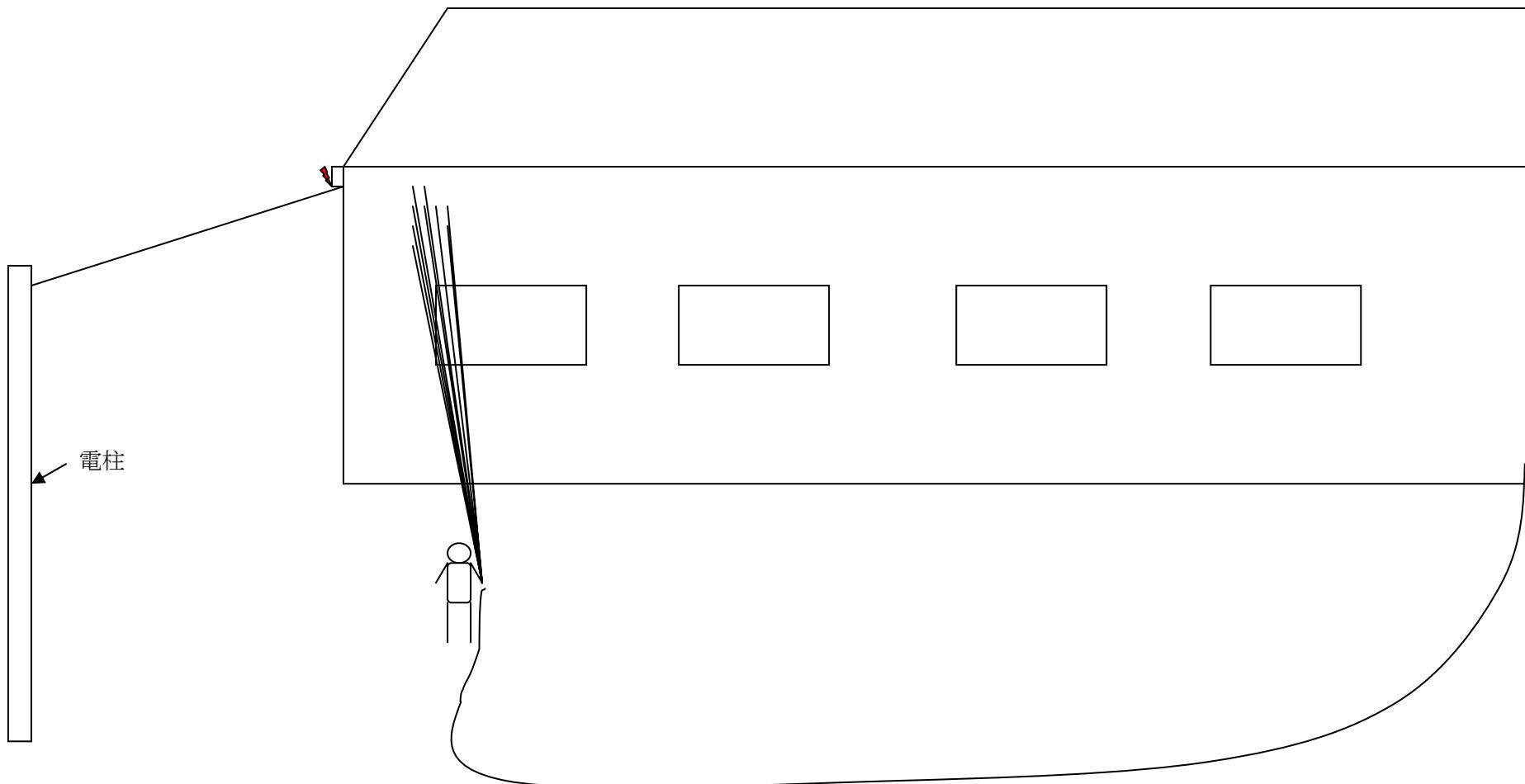
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

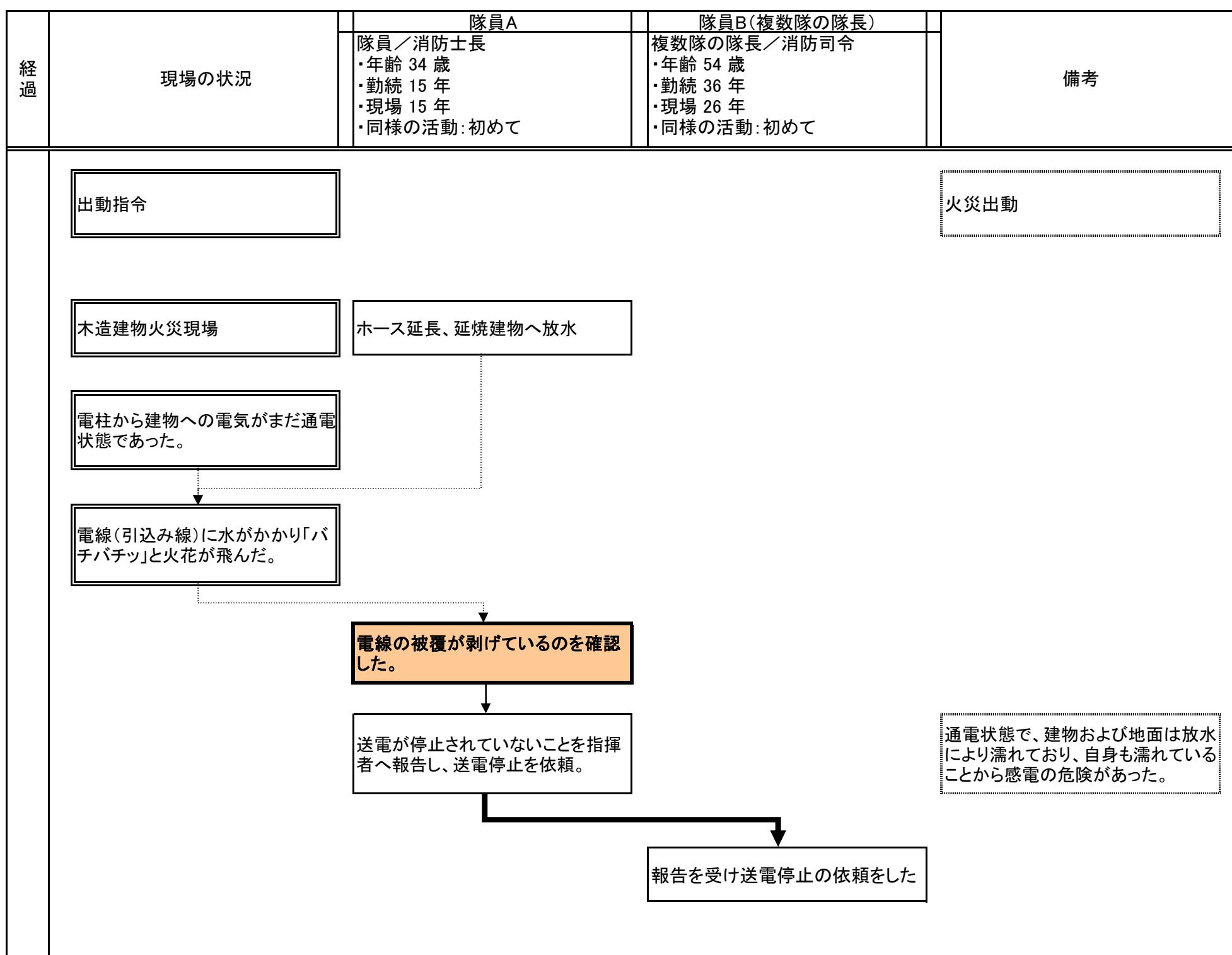
## ヒヤリハット状況図



○ヒヤリハット事例:建物火災現場における放水中の感電危険  
(同様の体験は、初めて体験した。)

(08H0088)

・発生日時 :平成20年5月28日 午後1時頃



◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因:行動の実行に問題があった。
  - ・危険情報を把握、予見できた。
  - ・危険事象の対応方法を知っていた。
  - ・指揮者が適切に指示した。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因